くまびょう NEWS 108号
くまびょう NEWS
2006年 6月1日
[発行所]
国立病院機構熊本医療センター
（前　国立熊本病院）
〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501 (代)
FAX (096) 325-2519

熊本大学大学院連携講座発足にあたって

熊本大学大学院
医学教育部長
山本　哲郎

この平成18年４月１日に、私どもの熊本大学大学院医学教育部博士課程臨床医科学専攻外科再建医学講座に「臨床国際協力学分野」を大学院連携講座として開設し、国立病院機構熊本医療センターの芳賀克夫外科医長に客員教授として、また、高橋毅救命救急部長に客員助教授として、この分野を担当して頂くことになりました。さらに、この分野で学位論文研究の指導を受けることになる社会人大学院学生も、国立病院機構熊本医療センターから入学して頂き、実働も始まりました。この学生の研究指導につきましては、医学教育部消化器外科学分野の馬場秀夫教授が、副指導教員としてお手伝いする体制を敷いております。お二人の客員教員には、これに加えて、教育部の博士課程と修士課程のその他の教育も分担して頂くことになると思います。

さて、近年高度化が著しい臨床医学を担う人材として「高度医療人」の育成が主張されています。この「高度医療人」とは、単に高度の専門知識や技術を身につけた医師や医療従事者を意味するのではなく、研究者と同等の論理的な思考方法に裏打ちされた問題解決型の能力を有し、かつ、高度の専門知識や技術を身につけた医療従事者を指すものと思われます。このような社会的要求から、豊かな医療従事経験と研究実績を併せ持つ臨床教育者による大学院教育が、今後更に重視されていくと考えられます。一方、今のようにグローバル化が進む社会では、国際的医療協力の意識が無くては「高度医療人」は成立しないと思われます。国境を越える絶え間ない人々の交流は、一方では海外からの感染症の進入と蔓延の危険を常に伴います。また、大災害時の国際医療協力は、いまや国際的人道支援の中心のひとつとなっているからです。このような時代にあっては、海外の医療人と遅延なく連携を組んでチーム医療を実践できる「国際的医療人」の育成が不可欠だと思います。

国立病院機構熊本医療センターは、これまで20年間に開発途上国百数十カ国から一千名を超す研修者を受け入れられ、また、WHOと連携してスタッフを海外に派遣して国際ネットワークを築かれるなど、国際医療協力に関する高い実績を誇っておられます。一方、私どもの医学教育部も、熊本大学エイズ学研究センターなどの研究者を教育スタッフに含んでいることから、学生たちの国際医療への関心は高いほうであると思います。

このたびの連携講座の設置は、このような両組織の長所を活かしあいながら、21世紀社会が求める「高度医療人」や「国際的医療人」の育成に取り組むあらたな大学院教育体制を模索するものでありますし、また、地域貢献と国際貢献とを共に推進することを目的とするものであると理解しています。

この連携講座が実を結び、研究マインドを持つ若き臨床医が一人でも多く熊本の地に育って頂ければと期待しております。

私ども医学教育部にとりまして、今回が連携講座の初経験となりますので、なにかと貴センターにご迷惑をお掛けするかもしれません。その際はご容赦のほどよろしくお願いいたします。

「開業して思うこと」

宮川眼科クリニック
院長 宮 川 真 一

昨年6月に国立病院機構熊本医療センターを辞し、12月に熊本市内の清水新地、サンリブ清水店の横で無床の眼科クリニックを開業致しました。

国立病院機構熊本医療センターはわずか3ヶ月の短い勤務でしたが、在職中は宮﨑先生はじめ各先生方にご指導頂き有難うございました。紙面をお借りして御礼申し上げます。

開業すると自分1人ですので、予想はしていたものの診療範囲は限られてきます。熊本医療センターに勤務していた時は画像診断や他科コンサルトが必要な時にはすぐに答えが得られましたが今はそうはいきません。治療経過観察も入院を要するような疾患では対応できません。先日も腎不全に伴う網膜症や神経学的アプローチが必要と思われる視野異常の患者様が受診されてどうしたものかと思いましたが、眼科の青木先生や神経内科の俵先生の温和なお顔が思い出され、すぐに熊本医療センターに紹介させて頂きました。患者様が受診された後、詳細なお手紙を頂いたばかりかご丁寧にお電話まで頂き、患者様共々安堵した次第です。

病院勤務していたときは思ってもいなかったことですが、一開業医として見てみますとしっかりとした診療をして頂いている総合病院が身近な存在であることが大変有難く思われます。

国立病院機構熊本医療センターでは、病診連携を推進しておられ、一開業医として安心して日々の診療に専念できるのも基幹病院との連携でのご支援があればこそと思います。開業してやっと日帰り白内障手術を始め、クリニックならではのきめ細やかな診療を実践したいと思っておりますが、当分は手探りの状態が続きそうです。

これからもご指導の程どうぞよろしくお願い致します。

国立病院機構九州ブロック臨床研修合同説明会開催のご案内

日　時：平成18年7月1日（土）13：00～17：00
18：00から意見交換会

場　所：国立病院機構九州医療センター講堂（福岡ドーム横）
福岡市中央区地行浜1－8－1

▶九州の国立病院機構病院（管理型・単独型臨床研修指定病院）が一同に会して、研修プログラムおよび内容を説明をします。
▶全病院の説明（プレゼンテーション）後、各病院のブースに分かれて個別に詳細に説明します。
▶先輩研修医もたくさん参加し、経験談をお聞かせします。
▶18時からは、意見交換会を開催いたします。
▶お申込みは右記ホームページからできます。

主　催：独立行政法人国立病院機構本部九州ブロック臨床研修委員会

◇参加病院

・小倉病院　・九州医療センター　・福岡東医療センター
・佐賀病院　・嬉野医療センター　・長崎医療センター
・熊本医療センター　・大分医療センター
・別府医療センター　・鹿児島医療センター
・関門医療センター（特別参加）

◇お問い合わせ先

独立行政法人国立病院機構九州ブロック事務所（医療課）
ホームページ　http://www.hosp.go.jp/~kyushu/
Tel：092-852-1734　Fax：092-852-1737
E-mail：fujisawa-masato@nho.hosp.go.jp

メールまたはFaxで事前登録を受け付けています！
詳細は、ホームページをご覧ください。

新任職員紹介（1）

総合医療センター
血液・膠原病内科
榮（さかい）　達（たつ）　智（のり）

この4月より内科で勤務しています榮達智と申します。平成6年に熊本大学医学部卒業後、熊本大学第二内科に入局しました。4年間の内科研修後、同第二内科大学院で成人T細胞白血病及び免疫不全症の研究を行いました。その後、2年間同附属病院血液内科に勤務し、更に2年間内科医としての幅を広げるため、熊本中央病院呼吸器科で研修し、この度、当センター内科でお世話になることとなりました。県内で唯一同種造血幹細胞移植を行える施設であり、血液分野で全国的にも認知された当病院で働くこととなり身の引き締まる思いです。一人でも多くの患者様の手助けが出来るように頑張りたいと思います。

何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

心臓血管センター
循環器科
田（た）　中（なか）　朋（とも）　子（こ）

4月より循環器科で勤務しております田中朋子です。ご存じの先生方もいらっしゃるかと思いますが、6年前にレジデントとして1年間、こちらで勤務させて頂いておりました。

医療は5年一昔というような時代にあって、6年も離れるとシステムなど含めて大きく変わったなと実感しております。実感だけならまだしも、こちらに赴任する前は大学院に4年間閉じこもっており、臨床の現場から離れていましたので右往左往する毎日です。このような状況ですので、何かと皆様方にはご迷惑お掛けすることとは存じますが、よろしくお願い致します。

小児科
伊（い）　藤（とう）　浩（ひろし）

この4月より小児科にお世話になっております伊藤浩と申します。

平成11年に熊本大学医学部を卒業し、熊本大学医学部附属病院小児科に入局させて頂きました。その後、当時の国立熊本病院、大学病院、芦北学園、水俣市立総合病院、山鹿市立病院にお世話になり現在に至っております。これまでは主に一般小児科の分野を中心に診療させて頂きました。当院小児科は小児白血病、悪性リンパ腫など小児血液悪性腫瘍の疾患を専門にしております。これまでは紹介する側であった疾患を診療させて頂くことになりましたので大いに勉強したいと思っております。当院には3年前にお世話になったのですが、当時と比べて救急医療を中心により一層充実した診療を行っている様子です。

熊本市西部の基幹病院として地域の小児医療に少しでも貢献できるように頑張っていく所存です。

どうぞ宜しくお願いいたします。

感覚器センター
眼　科
高（たか）　野（の）　晃（あき）　臣（おみ）

4月より眼科に勤務しております高野と申します。平成12年春、熊本大学眼科学教室に入局、熊本大学医学部附属病院眼科勤務の後、平成13年春から日本赤十字社和歌山医療センター眼科にて各種眼科手術等を学ばせて頂きました。平成14年秋に熊本大学医学部附属病院眼科へ戻り平成15年春からは熊本大学大学院医学研究科（視機能病態学講座）にて網膜硝子体に関する研究、具体的には網膜硝子体疾患の手術の際に重要となる後部硝子体剥離を酵素を用いていかに低侵襲で誘導するかといった研究等を行うとともに、臨床では網膜外来等で勉強させて頂きました。

今回の赴任にあたり、これまでの研究や臨床の経験を生かした診療を行うことで、眼科医長青木先生のサポートを行うとともに地域医療連携のお役に立つことが出来たらと考えております。ご指導ご鞭撻賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

新任職員紹介（2）

精神・神経科
本田和揮（ほんだかずき）

5月より精神神経科に勤務しております本田和揮です。平成14年5月に熊本大学神経精神科医局に入局し、熊本大学病院、県立宮崎病院精神科での臨床研修実習後、宮崎県の公立精神病院である宮崎県立富養園にて約2年間勤務していました。今回、久し振りに熊本に戻り、国立病院機構熊本医療センターという総合病院で勤務することになりました。宮崎県立富養園は単科精神科という特殊な職場であり業務内容が当院とは大きく違います。まだ戸惑いを感じ続ける毎日ですが、それと同時に総合病院でしか体験できない場面に立ち会う機会も多く新鮮さを感じています。

精神病院という特殊な職場で得られた知識・技術を生かし、少しでも皆様のお役に立てるように頑張って行きたいと思います。

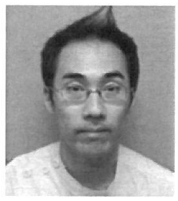
未熟で不慣れな面も多々ありご迷惑をお掛けすることがあるかと思いますが、少しでも皆様のご要望に応えられるよう努力していきたいと思います。よろしくお願い致します。

心臓血管センター
心臓血管外科
田中睦郎（たなかむつろう）

4月より心臓血管外科レジデントとしてお世話になっております田中睦郎です。

平成14年島根医大を卒業し、熊本大学旧第一外科へ入局しました。以降、熊本赤十字病院心臓血管外科、下関厚生病院一般外科、済生会熊本病院心臓血管外科と各地を転々としておりました。

こちらに赴任してから勝手がわからず困惑しておりますが、はやくシステムに慣れ、手術・周術期管理に集中できるようにしたいと思っています。心臓血管外科としましては今年で3年目になりますが、まだまだ未熟者ですので何かとご迷惑をお掛けすることとは存じますが、よろしくお願い申し上げます。

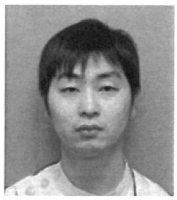


感覚器センター
皮膚科
藤澤明彦（ふじさわあきひこ）

この4月より皮膚科医として勤務しています藤澤明彦です。平成15年熊本大学皮膚科に入局しました。1年間同附属病院皮膚科で研修後八代の熊本労災病院に1年半、熊本大学附属病院皮膚科に半年勤務後、当センターでお世話になることになりました。また、今年から社会人大学院という形で大学院に入学を果たしコモンディジーズである尋常性乾癬についての研究をスタートしているところです。

臨床的には皮膚科だけに止まらずそれぞれの科の先生方と連携して患者様の治療に専念していき、また研究により少しでも医療の発展に貢献できればと考えています。

先生方にはご迷惑をお掛けすることがあると思いますが、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



感覚器センター
眼科
田原仁（たはらじん）

4月より眼科に勤務しております田原仁と申します。

出身は福岡で熊本大学医学部に入学しました。平成15年卒業後、そのまま熊本大学医学部附属病院の眼科医局に入局し、1年半大学病院に勤務しました。平成16年10月より熊本赤十字病院の眼科に勤務し今回当院への異動となりました。赤十字病院では一般外来、手術を行っていましたが、眼科医が2人体制でしたので、なかなか1人の患者様をゆっくりと診られませんでしたが、当院では3人いますので患者様の満足を得られる診察を目標に頑張って行きたいと思います。また総合病院ですので色々な症例を経験していければと思っております。

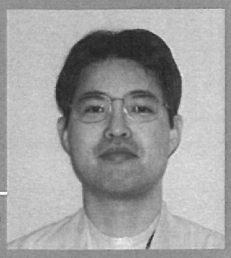
何かと先生方にはご迷惑をお掛けすることがあるかと思いますがこれからよろしくお願い致します。

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ 30回

心不全患者へのβ遮断薬導入
－クリティカルパスの有用性の検討－

心臓血管センター循環器科医長　宮尾　雄治



我が国において高齢者人口の増加などにより、心不全患者は年々増加しており、有効な治療法の確立、QOLの改善は、社会的な重要な課題の1つです。多くの大規模臨床試験などより、β遮断薬が、心不全の予後やQOLを改善することが証明され、第1選択薬になりつつあります。しかしながら、β遮断薬導入に際しては少量より開始し、ゆっくりと増量する必要があります。このことが心不全患者さんにβ遮断薬を導入する場合、入院期間の長期化を招くこととなり、医療経済的側面からは入院期間の適正化が必要と考えます。クリティカルパスは、治療手技を標準化し、定期的な検査を施行することでその治療手技の適切性を判断する手法となります。そこで心不全患者へのβ遮断薬導入クリティカルパスを作成し、有効性、安全性を検討してみました。

対象は2001年9月から2005年3月まで当院に心不全の診断にて入院した患者415名の中で、入院後β遮断薬を導入した42名としました。2004年の4月より、このクリティカルパスを使用開始とし、後期のクリティカルパス群17名（P群）と前期のコントール群25名（C群）の2群に分け、入院期間や入院費用、クリティカルパスの安全性などに関し比較検討しました。入院期間に関しては、総入院期間（18.0±8.5 vs 34.6±12.5日，P群 vs C群、Mean±SD）（図1）およびβ遮断薬開始後期間（12.3±3.3 vs 23.5±11.6日）ともに有意にP群で短縮されました（p<0.0001）。入院中の総医療点数はP群にて有意に低く（72310±40317 vs 106731±55203, P<0.05）、逆に1日当たりの医療点数はP群にて高い状況となりました（4001±742 vs 3083±980, p<0.01）。安全性に関しては、NYHA IIIで心拡大著明な1例が、β遮断薬の副作用と思われる症状で脱落となりました。その他は、ほとんどが患者・家族の都合などによる要因での変動がほとんどで、合併疾患1例と規定量よりさらなる増量のためのクリティカルパス延長例2例がありましたが、クリティカルパスそのものの認容性は概ね良好と考えます。ただし重症例でのクリティカルパス適応は検討が必要と思います。また退院後6ケ月にての予後（総死亡＋心血管イベントによる再入院）を検討しましたが、入院期間が短かったP群の方が、予後は良好でした（図2）。このことは、クリティカルパスを使用することで、多くの医療スタッフから漏れが無く、適切な指導を受けることが出来るため、食事や日常生活上の注意を守り、服薬認容性が高くなるためではないかと考えます。

先にも述べましたように心不全患者は増加していますが、その中で特に高齢者の占める割合が増加しています。高齢者では臓器合併症を有している例も多く、特にβ遮断薬の使用には充分な注意を払う必要があります。今後は、さらに高齢者においても、上記と同様にβ遮断薬導入のクリティカルパスが安全に有効に使用できるかを、国立病院機構の政策医療ネットワークを使って検討していくこととしています。

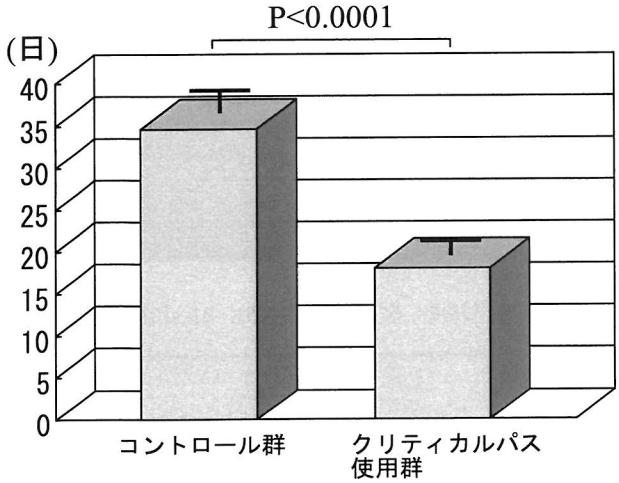


図1．入院期間

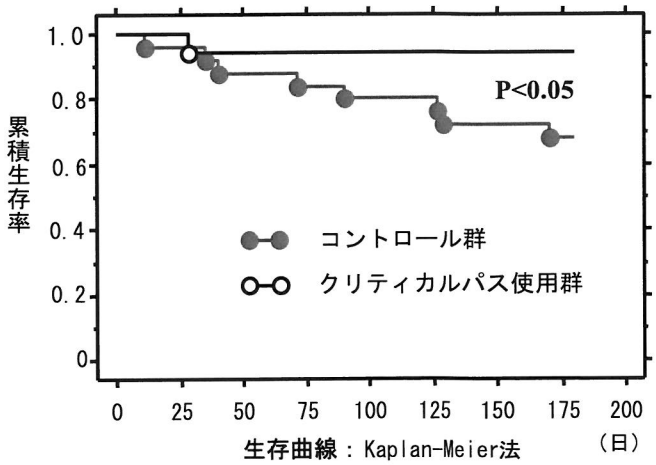


図2．コントロール群VSクリティカルパス使用群の生存分析

研修報告　フィラデルフィアにウィリアム・オスラー博士のスピリットを訪ねて

脳神経センター
神経内科医長
俵　哲

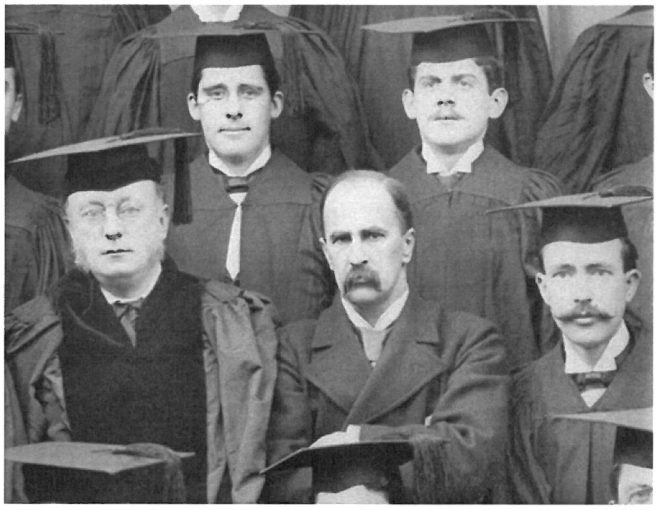
4月初旬、米国内科学会（ACP）出席の許可を頂いたので、御礼を兼ねて報告します。

ACPは、参加型の企画が豊富で、今回も予約制のWSや少人数講義に参加しました。各セクション終了後必ずアンケートを提出し企画に反映する方法は日本でも考慮するに値すると思われます。

学会参加の他、フィラデルフィアを訪れた目的は、ウィリアム・オスラー博士やその教えを受けた唯一の日本人医師、熊本医学校卒の佐伯理一郎氏の足跡を訪ねる為でもありました。その目的は充分には果たせませんでしたが、College of Physicians of Philadelphiaでは、1885年オスラー博士作製の両耳用の聴診器が保存されていました。ジェファーソン大学医学部のJ. S. Gonnella名誉学長を日野原重明先生から紹介して頂き訪れました。オスラー博士のSpiritとしてのBedside teachingは体験できませんでしたが、Gonnella先生からはMDの意味する3要素を図解入りで教わりました。臨床面では、危険因子を知り、早期に正確な原因、病理、重症度（local, regional, systemの何処まで及ぶか）の三次元診断をつけ、合併症を知り、適切な時に適切な内容の治療を、モニターを用いて行うことであり、患者にはICではなく、情報informationと理解understanding (I/U)をもたらす教師であり、適切で効果的で効率的なマネージャーでもあるべきであり、これらにEMPATHY（共感性）、COMPASSION（思いやり）、SENSITIVITY（感性）が必要であると力説されました。Disease staging法を加味したDRGの推奨者でもある。ペンシルバニア大学では神経内科主任教授のF. Gonzalez教授から学内を案内して頂きながら、神経内科の平均在院日数は5日で、産科は2日であると知りました。

ペンシルバニア大学には1800年代のよく書かれたカルテがきちんと保存されていました。現在は保存に値するカルテが書かれているでしょうか？

ACP総会会場入り口（Convention Center）



1896, W Osler & JC Wilson, at Jefferson

■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。
送付先　〒860-0008　熊本市二の丸1-5
国立病院機構熊本医療センター　『くまびょう NEWS』編集室まで

研修のご案内

第203回 初期治療講座（会員制）
［日本医師会生涯教育講座5単位認定］

日時▶平成18年6月10日(土)15：00～18：00
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

「水・電解質代謝異常と輸液療法」　座長　熊本大学大学院医学薬学研究部腎臓内科学助教授　野々口博史
1．血清Na・K値異常の成因と治療　熊本大学医学部附属病院腎臓内科講師　井上　武明
2．血清カルシウム値異常の成因と治療　国立病院機構熊本医療センター腎センター　宮中　敬
3．輸液療法の基礎知識　国立病院機構熊本医療センター腎センター長　富田　正郎

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費20,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局　TEL 096-353-6501（代表）内線263　096-353-3515（直通）

第89回 月曜会（無料）
（内科症例検討会）
［日本医師会生涯教育講座3単位認定］

日時▶平成18年6月19日(月)19：00～20：30
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

1．呼吸器内科による胸部X線写真供覧　国立病院機構熊本医療センター呼吸器センター呼吸器内科医長　森松　嘉孝
2．持ち込み症例の検討
3．症例呈示「関節リウマチに合併した腸管アミロイドーシスの治療：難治性の下痢に対する新しい治療法」
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液・膠原病内科　工藤　昌尚
4．ミニレクチャー「リビング・ウィルの世界」
国立病院機構熊本医療センター脳神経センター神経内科医長　俵　哲

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線写真、心電図等がございましたら、ご持参下さいますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター副院長　河野　文夫　TEL：096-353-6501（代表）FAX：096-325-2519

第16回 熊本がんフォーラム（無料）

日時▶平成18年6月20日(火)18：30～20：00
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

司会　熊本泌尿器科病院長　鍋倉　康文
「膀胱癌の診断と治療」　国立病院機構熊本医療センター泌尿器科医長　菊川　浩明

その他、一般演題を数題準備しています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 副院長　池井　聡　TEL 096-353-6501（代表）　FAX：096-325-2519

第58回 三木会（無料）
（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）
［日本医師会生涯教育講座3単位認定］
［糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定］

日時▶平成18年6月22日(木)19：00～20：45
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

1．『救急外来受診時の低カルシウム血症を契機に診断された偽性副甲状腺機能低下症Ib型の一例』
2．『ペンフィル30R/50Rからノボラピッド30ミックスへの変更―少数例での検討―』
3．『糖尿病診療における興味ある話題―第49回日本糖尿病学会年次学術集会より―』
国立病院機構熊本医療センター　児玉　章子、市原　ゆかり、高橋　毅、東　輝一朗、小堀　祥三

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科　小堀　祥三・東　輝一朗　TEL 096-353-6501（代表）内線796

第77回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成18年6月28日(水)18：30～20：00
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

症例検討「整形外科の救急疾患」　国立病院機構熊本医療センター整形外科医長　橋本　伸朗

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局　TEL 096-353-6501（代表）内線263　096-353-3515（直通）

平成18年 研修日程表 6月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

6月	研修ホール	会議室	その他
1日(木)			7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 18～19 代謝内科カンファレンス M
2日(金)			8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C
3日(土)	**9：30～16：00 第20回 ナースのための心電図セミナー〈会費制〉** **〈講演〉心電図の基礎 国立病院機構熊本医療センター循環器科医長 宮尾 雄治** **各種心疾患におけるＥＣＧ 国立病院機構熊本医療センター循環器科医長 藤本 和輝** **不整脈 末藤内科循環器科院長 末藤 久和** **〈実習〉心電計の取り扱い方 国立病院機構熊本医療センター循環器科医長 藤本 和輝** **国立病院機構熊本医療センター循環器科 村上 和憲** **国立病院機構熊本医療センター循環器科 田中 朋子** **国立病院機構熊本医療センター循環器科 福嶋隆一郎**		
5日(月)			8：00 MGH症例検討会 C 16～18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17～18 小児科カンファレンス 外来
6日(火)		18：00～19：30 血液病懇話会（図）	8：00 救急部カンファレンス C 15～18 外科術前術後症例検討会 C
7日(水)		16：00～18：00 皮膚科組織検討会（図）	17：00 消化器疾患カンファレンス C
8日(木)	18：30～20：00 病薬連携研修会		7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 18～19 代謝内科カンファレンス M
9日(金)			8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C
10日(土)	**15：00～18：00 第203回 初期治療講座《会員制》 ［日本医師会生涯教育講座５単位認定］** **座長 熊本大学大学院医学薬学研究部腎臓内科学助教授 野々口博史** **「水・電解質代謝異常と輸液療法」** **1．血清Na・K値異常の成因と治療 熊本大学医学部附属病院腎臓内科講師 井上 武明** **2．血清カルシウム値異常の成因と治療 国立病院機構熊本医療センター腎センター 宮中 敬** **3．輸液療法の基礎知識 国立病院機構熊本医療センター腎センター長 富田 正郎**		
12日(月)			8：00 MGH症例検討会 C 16～18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17～18 小児科カンファレンス 外来
13日(火)	19：00～20：30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18：00～19：30 血液病懇話会（図）	8：00 救急部カンファレンス C 15～18 外科術前術後症例検討会 C 19～21 泌・放射線科合同ウログラム C
14日(水)		16：00～18：00 皮膚科組織検討会（図）	17：00 消化器疾患カンファレンス C
15日(木)	19：30～21：30 第43回 有病者歯科医療講演会 座長 熊本市歯科医師会長 古賀 明 「当院における緩和医療について」 御幸病院ホスピス 鈴木 和夫		7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 18～19 代謝内科カンファレンス M
16日(金)			8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C
17日(土)	14：00～16：00 第190回 滅菌消毒法講座《会員制》 「新興感染症の現状」 熊本大学大学院医学薬学研究部先端生命医療科学部 感染・免疫学講座感染防御学教授 原田 信志		10～12 楽しく学ぶ基礎看護技術講座 学校
19日(月)	**19：00～20：30 第89回 月曜会（内科症例検討会）** **［日本医師会生涯教育講座３単位認定］**		8：00 MGH症例検討会 C 16～18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17～18 小児科カンファレンス 外来
20日(火)	**18：30～20：30 第16回 熊本がんフォーラム** **「膀胱癌の診断と治療」** **司会 熊本泌尿器科病院長 鍋島 康文** **国立病院機構熊本医療センター泌尿器科医長 菊川 浩明**	18：00～19：30 血液病懇話会（図）	8：00 救急部カンファレンス C 15～18 外科術前術後症例検討会 C
21日(水)	13：00～17：00 糖尿病教室	16：00～18：00 皮膚科組織検討会（図）	12～13 糖尿病教室 研食 17：00 消化器疾患カンファレンス C
22日(木)	18：30～21：00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	**19：00～20：45 第58回 三木会** **（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）** **［日本医師会生涯教育講座３単位認定］** **［糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定］**	7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 18～19 代謝内科カンファレンス M
23日(金)			8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C
26日(月)			8：00 MGH症例検討会 C 16～18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17～18 小児科カンファレンス 外来
27日(火)	18：30～20：30 血液研究班月例会	18：00～19：30 血液病懇話会（図） 19：00～21：00 小児科火曜会	8：00 救急部カンファレンス C 15～18 外科術前術後症例検討会 C
28日(水)	**18：30～20：00 第77回 救急症例検討会** **「整形外科の救急疾患」**	16：00～18：00 皮膚科組織検討会（図）	17：00 消化器疾患カンファレンス C
29日(木)		19：00～21：00 熊本脳神経疾患懇話会	7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 18～19 代謝内科カンファレンス M
30日(金)			8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C

（図）図書室　C 病院本館２階カンファレンス　手 手術室控室　臨 臨床研究部会議室　別6 別6病棟　外来 小児科外来　M ミーティングルーム　学校 看護学校　研食 研修棟食堂

問い合わせ先　〒860-0008 熊本市二の丸１番５号　国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター
TEL 096-353-6501（代）内線263　096-353-3515（直通）